

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立児玉高等学校)

目指す学校像	「授業」を大切にし、人間力(①目標に向かって努力する力②人と上手に関わる力③感情をコントロールする力)を育成することを通して、地域社会へ自信と自己肯定感を持った人材を輩出する学校
--------	---

重点目標	1 「授業」を大切にする学校 2 人がたくさん集まる学校 3 人間力(非認知能力)を育成し、地域社会に貢献する生徒を輩出する学校
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	誠 次年度への課題と改善策
1	義務教育段階から学校生活になじめない生徒や、学習活動に不安を抱える生徒も存在する。学習習慣がついておらず、学習意欲も高いわけではなく、生徒間に基礎学力の差がみられる。 わかりやすい授業を実践し、生徒の学習意欲を向上させ、学力を身に付けさせる。また、生徒に自信や達成感を育み、学習内容を確実に定着させることが課題である。	学習意欲の向上と基礎学力の定着。	①各教科による「ALタイム」導入等、授業の工夫・改善(通年) ②管理職による授業観察(年1回) 教員相互による授業研究(通年) ③学習サポーター活用や補習指導(通年) ④課題テスト(年3回)、一般常識テスト(年2回)の実施 ⑤各種検定受験の積極的な働きかけ(通年)	①1学年2学期末評定平均:3.0以上成績優良者と不良者の前年比10%向上、10%減少 ②生徒アンケート「わかりやすい授業」肯定70%以上 ③学習サポーター活用日数と生徒アンケート「補習体制の充実」肯定80%以上 ④課題テスト、一般常識テストの平均点向上 ⑤各種検定試験の受験者数の動向	①評定平均3.17(←3.12)成績優良者6.7%減少 不良者10.6%増加②「わかりやすい授業」肯定62.0%(←58.5%)③学習サポーター活用日数72日「補習体制の充実」肯定69.7%(←65.0%)④課題テスト1年:国54.2数50.0英27.3/2年:国50.2数47英72.3/3年国53.6数45英46.0、一般常識テスト1年58.6/2年58.0/3年41.6⑤商業系検定試験に延べ295名合格	B ・「基礎学力」の定着と自己肯定感を高める学習指導・授業改善の展開 ・生徒の進路選択・進路実現を踏まえた教育課程の編成 ・生徒の学習意欲を向上させるための検定試験の効果的な実施
2	学校の様子が地域社会に十分に浸透していない現状があり、学校の取組を正確に理解してもらう必要がある。 教育活動の積極的な情報発信や地域社会との交流事業等を更に充実、継続、発展させて、開かれた学校づくりを充実させることが課題である。	学校と地域社会、関係機関や地元小中学校、保護者等との連携強化。	①HP更新、一斉配信メール活用や地元報道機関と連携した学校情報の積極的発信(通年) ②「児玉高校だより」の地域への回覧(年6回) ③地元小中学校との交流事業の推進(通年) ④地域活動への積極的な生徒派遣(通年) ⑤PTA・後援会・同窓会との連携(通年) ⑥学校説明会、進学相談会や中学校訪問の工夫・改善(年10回)	①HP更新回数及びアクセス数保護者アンケート「情報提供を積極的に行っている」肯定70%以上 ②回覧を年6回以上実施 ③地元小中学校との交流事業等を年8日間以上実施 ④地域活動への参加回数 ⑤PTA等の学校行事への参加回数 ⑥学校説明会等の参加者数400名以上	①HP241回更新及び89万回アクセス達成「情報提供を積極的に行っている」肯定51.3%(←57.5%)②児玉高校だより5、7、9、10、11月号の5回を回覧(2、3月号回覧予定)③児玉小学校とサッカー部、女子バスケット部が計10日間交流④防犯のまちづくり街頭キャンペーンに演劇部、吹奏楽部が参加⑤バスケット販売、文化祭、校門指導、クロスカントリー大会参加⑥学校説明会参加者計326名(←236名)	A ・家庭、地域へ教育活動の効果的な情報発信 ・地域社会における生徒の校外活動の推進 ・小、中学校との教育活動を通しての連携 ・生徒募集に係る効果的な学校説明会等の企画・運営
3	粘り強く取り組んでいる生徒指導に効果が現れている。 卒業後の進路に関心の高い生徒が大多数であり、生徒の主体的な進路選択への支援が必要である。 学校行事や部活動を充実させて学校全体を活性化し、社会の一員として自己実現を図ることのできる生徒の育成が必要である。 キャリア教育や段階的な進路指導を実施して、生徒の自己理解を深め進路を選択決定させることが課題である。	学校生活の充実と規範意識の向上。 進路希望の実現。	①学年集会(毎月)、全校集会(定期的)の実施 ②整容指導の徹底(通年) ③定期的な登校・下校指導、遅刻指導や校内巡視の実施(通年) ④生徒会による学校行事の活性化(通年) ⑤部活動の活性化(通年) ①就労体験活動の計画的実施(通年) ②進路指導部と学年との連携(通年) 進路指導のしおり「メゾ」の活用(通年) ③進路行事の計画的実施(通年) ④就職支援アドバイザーの活用(通年) ⑤ハローワーク等の外部機関との連携(通年) ⑥高大連携事業の積極的活用(通年)	①学年集会、全校集会の実施回数 ②生徒アンケート「生徒指導が積極的」肯定90%以上 ③遅刻回数(1・2学期)の前年度比5%減少 ④生徒アンケート「学校行事が充実」肯定80%以上 ⑤部活動参加者数及び大会等の成果 ①生徒アンケート「就労体験は充実」肯定95%以上 中途退学者の減少(前年度比10%減) ②生徒・保護者アンケート「進路指導はきめ細やか」肯定70%以上 ③進路行事の計画的遂行 ④就職支援アドバイザーの活用日数 ⑤学校を通しての就職希望者の就職率 ⑥高大連携事業の実施回数	①学年集会毎月実施、全校集会1、2学期に各1回実施②「生徒指導が積極的」肯定81.7%(←87.6%)③遅刻回数前年度比34.5%増④「学校行事が充実」肯定64.3%(←64.1%)否定31.0%(←30.9%)⑤部活動加入者数169名49.3%(5/1現在)女子柔道部関東大会・全国大会出場、陸上競技部関東大会・全国大会出場 ①「就労体験は充実」肯定89.1%(←94.7%)中途退学者数前年度比5.8%増(12/31現在)10/28「埼玉教育ふれあい賞」受賞②「進路指導はきめ細やか」肯定53.3%(←56.9%)否定30.3%(←31.3%)進路行事計画完全実施④就職支援アドバイザー活用日数17日⑤就職希望者43名/43名が決定⑥高大連携回数1回(PTA講演会)	B ・交通安全、自転車等の運転マナー等の規範意識の醸成 ・整容指導、服装指導、遅刻指導等を含む生徒指導全般の指導の徹底及び生徒支援 ・部活動の活性化 ・系統的、組織的な進路指導・キャリア教育の推進 B ・進路実現を図るための生徒の自己理解、自己探求の進化 ・進学希望者、就職希望者など分野別の進路指導体制の充実

学校関係者評価	実施日 平成31年 2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	・校訓の制定を行ってはどうか。 ・体育コースから体育科への転換はどうか。実施して、武道・球技・陸上等充実を図り、体育大学への進学を進めるのはどうか。 ・資格取得が生徒にとってどれくらい有利に働いているのか。また、どのような種類の資格取得を実施しているのか教えていただき、中高連携を深めより良い関係を続けていきたい。 ・小中学校との交流(サッカー、バスケット、柔道他)運動部交流の充実 ・高校で行っていることをよりPRしていただき、中高連携を深めてより良い関係を続けていきたい。 ・生徒会アンケートの数値が上がっている。上がっている内容の分析もしており、大変素晴らしい。生徒会の生徒の意識が高く、素晴らしい。生徒会と先生方の関係をより充実させてほしい。 ・1年次就労体験、2年次進路見学会、進路行事を充実させてもらいたい。 ・部活動や生徒会活動、資格取得など一つのことを一生懸命やっている生徒に対する企業や進学先の評価は高い。より充実させてほしい。 ・卒業生が就職している企業等へ就労体験をしてもよいのではないかと。 ・就労体験は作業をするだけではなく、働くことの意義を教える場として、我々企業側もできることは協力をしていきたい。 ・たくさんの会社や学校を見学してもらいたい。 ・マナー教育は学校で体験としては実施していないが、社会人になってからとても必要。